

New Sophia No.3

福岡歯科学園広報誌 | ニューソフィア |

vol.20 [67号]

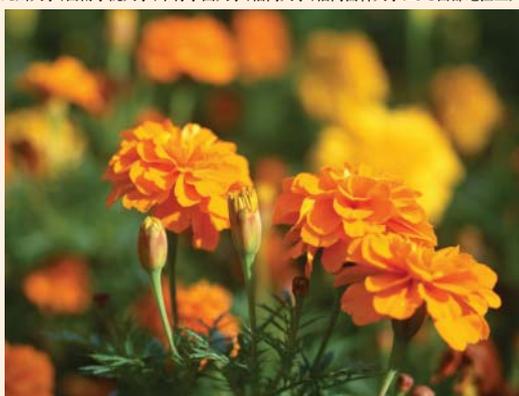
福岡歯科大学は「口腔医学」を推進しています



July
2010



九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学による西部地区五大学共同開講授業科目「博多学」が5月8日から始まりました(宮崎宮)



contents

page

平成21年度事業報告および決算	2・3
平成22年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択／公開講座	4
平成22年度科学研究費補助金の交付決定	5
新理事・評議員紹介／昇任教員紹介／上海交通大学口腔医学院・東釜山大学との相互交流	6
田中理事長、テレビ番組収録／福岡歯科大学AO入試学術奨励金支給者・特待生、大学院特別奨学生・奨学生、福岡医療短期大学特別奨学生	7
第13回福岡歯科学園体育祭／第42回歯学体夏期部門／西部地区五大学共同開講授業科目「博多学」開講	8
FROM THE ALUMNI ASSOCIATION 同窓会だより	9
HI.FROM CLINICS クリニックからこんにちは	10
FROM PARENTS 保護者からのメッセージ／父兄後援会支部懇談会開催日程	11
平成23年度入試日程／オープンキャンパス案内	12

福岡歯科学園

ホームページもご覧ください。

<http://www.fdcnet.ac.jp>

平成21年度事業報告および決算

学校法人福岡歯科学園の事業報告および決算が、5月25日開催の評議員会、理事会で承認されました。その概要は次のとおりです。

平成21年度事業の概要

福岡歯科学園理事長 田中 健藏

国・公・私立大学が生き残りをかける「大学淘汰の時代」にあつて、本学園の使命である「口腔医療・保健・福祉分野の高度専門職業人の育成」のため、授業料収入や医療・介護事業収入のほか補助金等の外部資金の導入に努め、効率的・効果的に教育研究活動を展開しました。以下、21年度における主な事業状況について報告します。

○「口腔医学の学問体系の確立」について、昨年度に引き続き国公私立歯科大学・歯学部、歯科医師会・医師会等に理解と協力を得るための意見交換、文部科学省・厚生労働省への理解と支援要請、学会や学術シンポジウム等での講演等により社会に対するアピール等を行いました。

また、平成20年度に採択された文部科学省G P(大学教育改革の「優れた取り組み」)「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」において、口腔医学カリキュラム「歯医学連携演習」を開発するとともに、新設したテレビ授業システムにより連携大学へ同時配信することとなりました。

○「第103回歯科医師国家試験」では、既卒者を含めた総合の合格率が80.5%で17私立歯科大学中第2位となり、前回の76%で第5位から大きく飛躍しました。短大の「第19回歯科衛生士国家試験」では、新卒者75名と既卒者3名の全員が合格しました。

○「教育水準の向上」について、大学では組織的FDの計画的実施、歯科医師として必要な基盤(態度)教育の効果の検証に努めるとともに、学務委員会の下に「臨床実習小委員会」を新設し診療参加型臨床実習の充実策を検討しています。短大では歯科衛生学専攻科生15名が、大学評価・学位授与機構から「口腔保健学士」の学位を授与されました。

また、21年度文部科学省GPに、大学では「臨床体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」が採択されました。短大で

は「超高齢社会の就業力向上につなげる医療・福祉系学生の就職支援」が採択されました。

○「学生募集」では、社会経済状況の悪化や18歳人口の減少、特に歯科医師の需給問題や福祉・介護の人材確保問題等により、志願者が急激に減少している中で、「歯科医療・社会福祉への貢献」という明確で強い目的意識を持った学生確保に向けて、学生募集事業全体の厳しい点検と見直しを行った結果、22年度入学者は大学学部が81名(前年比13名減)、大学院が16名(前年比9名増)、短大歯科衛生学科は93名(前年比19名増)、保健福祉学科は32名(前年比16名増)となりました。

○「研究の活性化」では、昨年度に引き続き理事長と学長が専任教員等から各自の研究テーマ取り組み状況を提出させ、各所属長及び教授全員との面談を行うことにより、研究マインドの醸成・計画的な研究の実施等の指導充実を図っています。

また、「先端科学研究センター」においては、本学の多数の教員が本センターを利用し研究に取り組み、その成果発表会を開催するとともに、国内外から著名な研究者を招聘し国際シンポジウム等を開催し、最新の研究成果の発表や活発な討論が行われました。

○「医科歯科総合病院」では、福岡市西部地区の総合医療センターとして地域医療に貢献するとともに、教育病院として学生・研修医等の指導にあたっています。

外来患者総数は前年度より2.5%増となり、特に医科は9.2%の増となりましたが、1日当たり患者数は536人と目標の600人を下回りました。病院の患者増は学生に対する診療参加型臨床実習の充実の観点からも重要課題であり、より優秀な医師・歯科医師を招致するため、22年度から専任の教員・医員である医師・歯科医師に対して暫定診療手当を支給し、病院運営実績の一層の向上を図ることとしています。

また、医科歯科総合病院の新設に向け「病院

将来構想検討委員会」を設置し、患者サービスの向上・学生指導の充実等、多方面からの期待と要望に応えられる検討を始めました。

○「介護老人保健施設サンシャインシティ」では、本学はもとより他大学の学生の介護実習の実施や地域の中・高生の職場体験やボランティア体験等の受け入れ等に努めています。

また、入所者稼働率は98%(前年比0.2%増)となっており、今後は通所サービスやデイサービス等の稼働率向上にも努めることとしています。また、介護・看護職員等の給与改善3カ年計画の最終年度として、一律4号俸の昇給を実施しました。

○「施設・設備の充実」では、本館・研究棟の耐震改修工事、エレベーターの制御機器等の更新、節水型自動洗浄便器・自動手洗い器設置等のトイレ改修工事、4階402実習室をマルチメディア対応実技教育実習室に整備、5階504教室にTV授業システム導入等の整備を行いました。なお、本事業に対し文部科学省から7億2千万円の助成を受けました。

○「財政の健全化」では、21年度事業の実施においても必要性・緊急性・費用対効果等を十分吟味した予算執行に努め、バランスの取れた収支を維持しており、特に資産運用においては安全かつ効果的な運用方針の下、当初予算を上回る運用益を計上することができ、引き続き安定した財政基盤を維持しています。

しかし、大学間競争の激化・競争的環境の急激な進展の中で、多くの優秀な学生を確保するために学生納付金を他の私立歯科大学並みに引き下げざるを得ないなど、本学の経営環境はこれまでに無く厳しさを増しています。理事会といたしましては、今後も事業収入増・資産運用収入の確保、競争的資金の獲得、退職金見直し等の役員給与の適正化、学園情報システムの整備・充実等により、効率的な管理運営の推進に努めてまいります。

平成21年度(第38期)決算の概要

平成21年度の資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び財産目録の概要は次のとおりです。

1. 資金収支計算書

収入の部では、学生生徒等納付金収入35億6,253万円、補助金収入12億2,085万円、事業収入17億5,548万円など収入合計は160億1,896万円となり、これに前年度繰越支資資金9億4,263万円を加えた収入の部合計は169億6,160万円となりました。

一方、支出の部では、人件費支出35億4,812万円、教育研究経費支出13億8,571万円、施設関係支出9億6,574万円、設備関係支出5億1,997万円など支出合計は157億758万円となり、収入の部合計からこれを差し引いた次年度繰越支資資金は12億5,401万円となりました。

主な内容は次のとおりです。

【収入の部】

- ① 学生生徒等納付金収入は、短大学生数の減少により対前年度比1,148万円の減収となりましたが、概ね予算額と同額の35億6,253万円となりました。
- ② 補助金収入は、本館及び研究棟耐震改修事業、402実習室改修事業、節水型トイレ改修事業等が採択されたことにより、対前年度比7億365万円の増収となり、概ね予算額と同額の12億2,085万円となりました。
- ③ 事業収入は、老健施設介護収入等の増により対前年度比4,418万円の増収となり、予算額を2億4,690万円上回る17億5,548万円となりま

した。このうち、病院医療収入は12億8,018万円、老健施設介護収入は4億4,341万円です。

【支出の部】

- ① 人件費支出は、定年退職による退職金の増加等により対前年度比8,577万円の増となりましたが、予算額を3億8,934万円下回る35億4,812万円となりました。
- ② 施設関係支出は、本館及び研究棟耐震改修工事、402実習室改修工事、節水型トイレ改修工事等を実施したことにより、対前年度比6億2,169万円の増となりましたが、予算額を4億2,631万円下回る9億6,574万円となりました。
- ③ 設備関係支出は、402実習室改修に伴うマルチメディア対応統合型実技教育装置、病院眼科開設に伴う機器備品の購入等により、対前年度比3億1,519万円の増となり、予算額を6,160万円上回る5億1,997万円となりました。

2. 消費収支計算書

消費収入の部では、帰属収入合計は77億7,079万円となり、第2号基本金6億円などの基本金組入額合計16億2,150万円を差し引いた消費収入の部合計は61億4,928万円となりました。

一方、消費支出の部では、消費支出の部合計55億3,078万円となり、消費収入の部合計からこれを差し引いた当年度消費収入超過額は6億1,850万円となりました。これに前年度繰越消費収入超過額41億3,192万円と基本金取崩額2,723万円を加えた翌年度繰越消費収入超過額は47億7,766万円となりました。

この結果、人件費比率は43.8%となり、全国平均50.0%(平成20年度)を大きく下回っています。

また、帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は22億4,001万円となり、帰属収支差額比率は28.8%で全国平均0.8%(平成20年度)を大きく上回っており、財務の健全性を維持しています。

3. 貸借対照表

資産の部合計は、本館及び研究棟耐震改修工事等による建物取得額の増加、また有価証券の購入等により対前年度比27億2,261万円増の557億9,926万円となりました。

負債の部合計は、退職給与引当金等で対前年度比4億8,259万円増の41億8,020万円となりました。

基本金の部合計は、第2号基本金引当資産の組入れ6億円等により対前年度比15億9,426万円増の468億4,140万円となりました。

消費収支差額の部合計は、対前年度比6億4,574万円増の47億7,766万円となりました。

4. 財産目録

資産の部は、土地、建物等の基本財産368億7,684万円と減価償却引当特定資産等の運用財産189億2,242万円の合計で557億9,926万円となりました。

負債の部合計は41億8,020万円で、資産の部合計額、負債の部合計額とも貸借対照表の合計額と一致しています。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた差し引味財産は、対前年度比22億4,001万円増の516億1,906万円となりました。

平成21年度(第38期)資金収支決算総括表(平成21年4月1日~平成22年3月31日)

(単位:円)

科目	予 算		決 算		差 異 金 額
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
【収入の部】					
学生生徒等納付金収入	3,561,923,000	23.29	3,562,537,500	22.24	△ 614,500
手数料収入	21,225,000	0.14	21,209,350	0.13	15,650
寄 附 金 収入	26,200,000	0.17	23,323,657	0.15	2,876,343
補助金収入	1,180,617,000	7.72	1,220,851,700	7.62	△ 40,234,700
国庫補助金収入	1,180,532,000	-	1,213,242,000	-	△ 32,710,000
地方公共団体補助金収入	85,000	-	7,609,700	-	△ 7,524,700
資産運用収入	792,790,000	5.18	902,590,263	5.63	△ 109,800,263
資産売却収入	500,000,000	3.27	537,770,000	3.36	△ 37,770,000
事業収入	1,508,585,000	9.86	1,755,489,156	10.96	△ 246,904,156
雑収入	187,050,000	1.22	272,742,225	1.70	△ 85,692,225
前受金収入	696,050,000	4.55	695,539,000	4.34	511,000
その他の収入	7,935,527,000	51.88	8,960,964,973	55.94	△ 1,025,437,973
資金収支調整勘定	△ 1,114,211,000	△ 7.28	△ 1,934,051,566	△ 12.07	819,840,566
(小計)	(15,295,756,000)	(100.00)	(16,018,966,258)	(100.00)	(△ 723,210,258)
前年度繰越支払資金	942,636,000		942,636,193		△ 193
収入の部合計	16,238,392,000		16,961,602,451		△ 723,210,451

科目	予 算		決 算		差 異 金 額
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
【支出の部】					
人件費支出	3,937,464,000	24.56	3,548,120,760	22.59	389,343,240
教育研究経費支出	1,284,542,000	8.01	1,385,719,560	8.82	△ 101,177,560
管理経費支出	216,439,000	1.35	218,168,572	1.39	△ 1,729,572
施設関係支出	1,392,065,000	8.68	965,748,215	6.15	426,316,785
設備関係支出	458,372,000	2.86	519,978,920	3.31	△ 61,606,920
資産運用支出	8,557,556,000	53.37	9,722,996,800	61.90	△ 1,165,440,800
その他の支出	397,582,000	2.48	406,757,448	2.59	△ 9,175,448
[予備費]	(32,461,000)				267,539,000
資金支出調整勘定	267,539,000	1.67	△ 476,400,000	△ 2.98	△ 1,059,903,040
(小計)	(16,035,159,000)	(100.00)	(15,707,587,235)	(100.00)	(327,571,765)
次年度繰越支払資金	203,233,000		1,254,015,216		△ 1,050,782,216
支出の部合計	16,238,392,000		16,961,602,451		△ 723,210,451

平成21年度(第38期)消費収支決算総括表(平成21年4月1日~平成22年3月31日)

(単位:円)

科目	予 算		決 算		差 異 金 額
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
【消費収入の部】					
学生生徒等納付金	3,561,923,000	48.87	3,562,537,500	45.85	△ 614,500
手数料	21,225,000	0.29	21,209,350	0.27	15,650
寄 附 金	36,200,000	0.50	35,373,390	0.46	826,610
補助金	1,180,617,000	16.20	1,220,851,700	15.71	△ 40,234,700
国庫補助金	1,180,532,000	-	1,213,242,000	-	△ 32,710,000
地方公共団体補助金	85,000	-	7,609,700	-	△ 7,524,700
資産運用収入	792,790,000	10.88	902,590,263	11.62	△ 109,800,263
事業収入	1,508,585,000	20.70	1,755,489,156	22.59	△ 246,904,156
雑収入	187,050,000	2.56	272,742,225	3.50	△ 85,692,225
(帰属収入合計)	(7,288,390,000)	(100.00)	(7,770,793,584)	(100.00)	(△ 482,403,584)
基本金組入額合計	△ 2,411,159,000		△ 1,621,504,826		△ 789,654,174
消費収入の部合計	4,877,231,000		6,149,288,758		△ 1,272,057,758

科目	予 算		決 算		差 異 金 額
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
【消費支出の部】					
人件費	3,984,831,000	64.11	3,400,469,501	61.48	584,361,499
教育研究経費	1,726,899,000	27.78	1,828,245,400	33.06	△ 101,346,400
管理経費	236,428,000	3.80	239,164,586	4.32	△ 2,736,586
資産処分差額	0	0.00	62,842,536	1.14	△ 62,842,536
徴収不能額	0	0.00	60,170	0.00	△ 60,170
[予備費]	(32,461,000)	4.31			267,539,000
(消費支出の部合計)	(6,215,697,000)	(100.00)	(5,530,782,193)	(100.00)	(684,914,807)
当年度消費収入超過額	0		618,506,565		
前年度消費支出超過額	1,338,466,000		0		
前年度繰越消費収入超過額	4,131,924,000		4,131,923,681		
基本金取崩額	0		27,235,838		
翌年度繰越消費収入超過額	2,793,458,000		4,777,666,084		

貸借対照表(平成22年3月31日)

科目	本年度末	前年度末	増 減
【資産の部】			
固定資産	(53,305,719,343)	(51,568,325,344)	(1,737,393,999)
有形固定資産	(11,431,305,902)	(10,474,491,753)	(956,814,149)
土地	2,853,955,052	2,853,955,052	0
建物	5,238,793,702	4,267,052,750	971,740,952
構築物	209,738,345	223,298,143	△13,559,798
教育研究用機器備品	1,581,295,810	1,352,564,866	228,730,944
その他の機器備品	30,274,484	29,136,772	1,137,712
図書	1,513,882,769	1,478,129,017	35,753,752
車 輛	3,365,740	2,485,153	880,587
建設仮勘定	0	267,870,000	△267,870,000
その他の固定資産	(41,874,413,441)	(41,093,833,591)	(780,579,850)
電話加入権	1,705,991	1,705,991	0
敷金保証金	17,850,000	17,850,000	0
教育研究用ソフトウェア	8,998,500	0	8,998,500
その他のソフトウェア	6,290,550	0	6,290,550
有価証券	2,023,328,400	2,395,657,600	△372,329,200
退職給与引当特定資産	2,250,500,000	2,250,500,000	0
減価償却引当特定資産	8,946,000,000	8,946,000,000	0
施設設備充実引当特定資産	3,100,000,000	3,100,000,000	0
第2号基本金引当資産	8,200,000,000	7,600,000,000	600,000,000
第3号基本金引当資産	16,899,740,000	16,362,120,000	537,620,000
第4号基本金引当資産	420,000,000	420,000,000	0
流動資産	(2,493,550,175)	(1,508,333,770)	(985,216,405)
現金預金	1,254,015,216	942,636,193	311,379,023
債券等短期運用資産	0	198,680,000	△198,680,000
未収入金	1,179,780,396	311,015,523	868,764,873
貯 蔵 品	1,235,295	1,926,016	△690,721
前 払 金	58,519,268	54,076,038	4,443,230
資産の部合計	55,799,269,518	53,076,659,114	2,722,610,404

科目	本年度末	前年度末	増 減
【負債の部】			
固定負債	(2,250,042,771)	(2,375,203,345)	(△ 125,160,574)
退職給与引当金	2,225,020,998	2,372,672,257	△ 147,651,259
長期未払金	22,490,685	0	22,490,685
長期預り金	2,531,088	2,531,088	0
流動負債	(1,930,157,330)	(1,322,397,743)	(607,759,587)
未払金	1,007,473,471	364,882,158	642,591,313
前受金	712,739,000	771,411,000	△ 58,672,000
預り金	209,944,859	186,104,585	23,840,274
負債の部合計	4,180,200,101	3,697,601,088	482,599,013

科目	本年度末	前年度末	増 減
【基本金の部】			
第1号基本金	21,321,663,333	20,865,014,345	456,648,988
第2号基本金	8,200,000,000	7,600,000,000	600,000,000
第3号基本金	16,899,740,000	16,362,120,000	537,620,000
第4号基本金	420,000,000	420,000,000	0
基本金の部合計	46,841,403,333	45,247,134,345	1,594,268,988

科目	本年度末	前年度末	増 減
【消費収支差額の部】			
翌年度繰越消費収入超過額	4,777,666,084	4,131,923,681	645,742,403
消費収支差額の部合計	4,777,666,084	4,131,923,681	645,742,403

科目	本年度末	前年度末	増 減
【負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計】	55,799,269,518	53,076,659,114	2,722,610,404

徴収不能引当金
未収入金等の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額2,439,795,230円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。

2. 減価償却額の累計額合計額 10,465,870,994円

3. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 496,380,434円

4. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 関連当事者との取引

記載すべき関連当事者との取引はない。

財産目録総括表(平成22年3月31日)

資産の部	金 額
I. 基本財産	36,876,846,101
固定資産	36,876,846,101
(1) 有形固定資産	11,340,111,060
(2) その他の固定資産	25,536,735,041
運用財産	18,922,423,417
1. 固定資産	16,428,873,242
(1) 有形固定資産	91,194,842
(2) その他の固定資産	16,337,678,400
2. 流動資産	2,493,550,175
資産の部合計	55,799,269,518

負債の部	金 額
I. 固定負債	2,250,042,771
退職給与引当金	2,225,020,998
長期未払金	22,490,685
長期預り金	2,531,088
II. 流動負債	1,930,157,330
未払金	1,007,473,471
前受金	712,739,000
預り金	209,944,859
負債の部合計	4,180,200,101
差引正味財産	51,619,069,417
負債の部合計及び差引正味財産合計	55,799,269,518

※資金収支計算書 : 当該会計年度の諸活動に対するすべての資金の収支を明らかにするものです。
 ※消費収支計算書 : 民間企業の損益計算書に該当するもので、財政の健全性を測定する尺度となります。
 ※貸借対照表 : 当該会計年度末の資産及び負債・基本金・消費収支差額の状況を表すものです。
 ※財産目録 : 当該会計年度末の資産及び負債の状況を表すものです。

※帰属収入 : 学生生徒等納付金、寄附金、補助金その他の学校法人の負債と成らない収入です。
 ※消費支出 : 人件費、教育研究経費、管理経費などの学校法人の経常的支出です。
 ※人件費比率 : (人件費 / 帰属収入) × 100
 ※帰属収支差額比率 : [(帰属収入 - 消費支出) / 帰属収入] × 100

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択

歯科医療工学講座の松家茂樹教授を代表とする研究プロジェクト「生体内環境を調和する硬組織再生システム」が平成22年度私立大学戦略的研究基盤形成事業に採択され、助成金(5年間で約1億4,000万円の予定)を獲得しました。

本プロジェクトが目指す口腔内骨形成バイオリアクターの構築は、補填部内部に骨形成に最適な生体内環境を人為的に誘導し、硬組織再生システムを構築するという、これまでにない発想によるものであり、材料工学的にも、医学・口腔医学的にも学術的価値が高いものです。本研究は硬組織欠損の再建に途を開き、その成果は高齢者のQOL向上に大きく貢献すると共に、骨形成に伴う機能不全に対する治療戦略を考える上で大いなる福音となります。

本研究プロジェクトは、学内教員を中心に海外の研究者とも協力して行われます。研究チームのメンバーと課題は以下の通りです。

■研究概要

【学内】

- ・松家茂樹 教授(生体工学分野)「アパタイト系骨補填材による再生システムの構築」
- ・福島忠男 准教授(生体工学分野)「DNA/キトサン複合体の感染防止、細胞侵入阻止膜への応用」
- ・川口 稔 講師(材料工学分野)「分子ヒーターによる生体調和型温熱治療デバイスの創製」
- ・上西秀則 教授(感染生物学分野)「薬物徐放システムによる感染防御法の確立」
- ・長 環 准教授(感染生物学分野)「薬物徐放システムによる感染防御機構」
- ・鍛冶屋浩 講師(細胞生理学分野)「骨系細胞の活性化・不活性化の造骨制御」
- ・阿南 壽 教授(歯科保存学分野)「再生促進因子を応用した歯周組織再生療法の開発」
- ・泉 利雄 准教授(歯科保存学分野)「生体活性ガラス含有セメントの再建医療への応用」
- ・諸富孝彦 講師(歯科保存学分野)「生体活性ガラスを応用した硬組織再建療法の確立」
- ・松浦正彦 教授(口腔インプラント学分野)「骨伝導性生体材料及骨界面の微細構造と遺伝子学的研究」
- ・城戸寛史 准教授(口腔インプラント学分野)「新規骨伝導性生体材料の開発と生物学的研究」

【学外】

- ・石川邦夫 教授(九州大学)「アパタイト系骨補填材の開発・評価」
- ・Artemis Stamboulis 講師(バーミンガム大学(英国))「生体活性ガラスの構造解析」
- ・Robert G Hill 教授(クイーンメリー大学(英国))「新規生体活性ガラスの構造と物性」

戦略的大学連携支援事業

「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」 歯医学連携演習TV授業 開講

去る4月5日に、8大学の連携による初の共同授業「歯医学連携演習」が開講しました。

この授業は、これまで1年にわたって連携8大学のカリキュラム作成担当者を中心になって作られたシラバスに沿って行われるもので、平成22年度は、前期(4月5日～7月5日)に全18コマ実施されました。

第1回目は代表校である本学小島寛教授(TV授業実施責任者)の挨拶の後、本学廣藤卓雄教授、大星博明教授による共同講義を北海道医療大学、鶴見大学、神奈川歯科大学、九州歯科大学、福岡歯科大学の学生が受講しました。ICTの活用により大学間がボーダレスになるとともに、医科・歯科の垣根を越えた幅広い知識が共有化されました。受講生学生のアンケートでは、「他大学の学生と受講できるのはやる気が出た」など、学びの効果においても今後が楽しみです。



第1回(4/5)の授業風景

公開講座のご案内

●福岡歯科大学公開講座●

口腔ケア～お口の手入れが身体を守る～

日 時：平成22年9月25日(土)・26日(日)13:00～16:00 ※1日のみの参加も可
場 所：よみうりプラザ(福岡市中央区赤坂)

9月25日(土)

- ・「お口の中のバイキンマン」
講師：長 環 福岡歯科大学 感染生物学分野 准教授
- ・「食べる・話す・笑う～生活の質を護る口腔ケア～」
講師：升井 一朗 福岡医療短期大学 歯科衛生学科 教授
- ・「高齢者のお口の中は？」
講師：武内 哲二 福岡歯科大学 高齢者歯科学分野 講師

- 定 員：120名
- 受講料：無 料
- 申込方法：受講希望日・氏名・年齢・性別・住所・電話番号を明記の上、電話、FAX、E-mail、またはハガキで右記宛にお申込みください。折り返し受講票をお送りします。

9月26日(日)

- ・「歯周病はなぜ怖い?～沈黙の刺客、歯周病」
講師：永井 淳 福岡歯科大学 歯周病学分野 准教授
- ・「甘くない糖尿病」
講師：内齒 祐二 福岡歯科大学 内科学分野 助教
- ・「お口から眼へ!～糖尿病網膜症～」
講師：畑快 右 福岡歯科大学 眼科学分野 教授
- ・「自分でする、みんなとする、口腔ケア」
講師：筒井 昭仁 福岡歯科大学 口腔健康科学分野 准教授

- 申込先：福岡歯科大学 企画課
〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
TEL:092-801-0411(内線508) FAX:092-801-3678
E-mail:kikaku@college.fdcnet.ac.jp



メールでのお申込みはこちら

●第10回福岡医療短期大学公開講座●

食べる機能を考える ―おいしく安全な食事を提供する―

日 時：平成22年10月3日(日) 13:30～17:00
場 所：福岡医療短期大学 307教室(福岡市早良区田村)

- I. 講演
講演1：「食べる機能と「食」のサポート ～多職種連携の時代～」
講師：鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座 講師 菅武雄
講演2：「食の入り口、生命(いのち)のはじまり―最初の一口から最後の一口まで―」
講師：中村学園大学栄養科学部栄養クリニック 教授 大部正代
※他に講演2題予定
- II. 総合討論
コーディネーター：福岡医療短期大学 教授 升井一朗

参加申込締切：9月24日
申込方法：氏名、参加人数、住所、連絡先を明記の上、FAXまたはE-mailで下記宛にお申込み下さい。

申込先：〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
福岡医療短期大学 公開講座委員会
TEL: 092-801-0923 FAX: 092-801-4473
E-mail: koukai10@college.fdcnet.ac.jp
*定員になり次第締め切らせていただきます。
なお、参加料は無料です。



メールでのお申込みはこちら

●第6回健康まるごと福岡歯科学園●

日 時：平成22年10月23日(土)、24日(日)
場 所：福岡歯科大学
福岡歯科学園では、医療・保健・介護のみならず、より広い分野での地域貢献を果たすため、「健康まるごと福岡歯科学園」を開催します。盛りだくさんの内容で、皆さんのご来場をお待ちしています。

- 問合せ先
福岡歯科大学 企画課
TEL:092-801-0411(内線508) FAX:092-801-3678
E-mail:kikaku@college.fdcnet.ac.jp

●第4回口腔機能向上スキルアップフォーラム●

日 時：平成22年10月3日(日) 10:00～11:30
場 所：福岡医療短期大学
参加費：無 料 文部科学省委託事業

- 講 演 『摂食機能からみた栄養支援』
菊谷 武 日本歯科大学教授
附属病院口腔介護・リハビリテーションセンター長

申込方法：下記に必要事項(氏名、勤務先、職種、郵送先住所)を記入のうえ、必ずファックスでお申し込みください。
FAX:092-801-4473 締切:9月15日正午まで
9月15日以降に参加受付書を郵送いたします。当日必ずご持参ください。

《平成22年度 福岡歯科大学・福岡医療短期大学 科学研究費補助金交付一覧》

文部科学省、日本学術振興会から交付される平成22年度の科学研究費補助金対象研究等が次のとおり決定しました。

研究種目	所属講座	職名	氏名	決定額 (直接経費+間接経費) (単位:千円)	研究課題
基盤研究(B)	先端科学研究センター	教授	関口 睦夫	4,030	酸化ストレスによる老化を抑える遺伝子系
	生体構造学	教授	沢 禎彦	12,610	リンパ管内微小環境におけるCLEC2-PLAG複合体の癌性形質誘導に関する研究
	咬合修復学	准教授	松浦 尚志	3,770	インプラント予知診断のための顎骨骨膜分析法の開発
	細胞分子生物学	教授	岡部 幸司	3,380	破骨細胞分化を制御するCa ²⁺ オシレーション形成と転写因子NFATの調整機構
	咬合修復学	教授	佐藤 博信	3,250	コラーゲン生化学的性状に起因する歯槽骨の表現型とその加齢変化パターンの同定
成長発達歯学	教授	石川 博之	3,120	bFGFによる口蓋裂術後癒着形成の制御に関する基礎的研究	
基盤研究(C)	先端科学研究センター	准教授	高木 康光	1,950	酸化ストレス下で、正常な複製や転写を保证する酵素の役割
	診断・全身管理学	助教	三輪 邦弘	1,170	頸部腫瘍超音波像を利用した画像診断所見の統一量化システムの開発
	生体構造学	准教授	敦賀 英知	1,950	伸展刺激によりオキシタラン線維から遊離するLTBP-2の意義
	口腔保健学	准教授	筒井 昭仁	2,080	人はフッ素利用にリスクを感じているのか、どのくらい大ききで、どんなものかを調べる
	咬合修復学	准教授	城戸 寛史	780	透明プラスチックインプラントを用いた骨結合達成スピードの動的評価
	医療人間学	教授	壬生 正博	650	中世異界夢文学と黙示文学との比較研究を基盤とした異界図像集作成
	細胞分子生物学	教授	日高 真純	1,560	新規アポトーシス誘導因子の単離とその分子機能解析
	機能生物化学	教授	早川 浩	1,430	RNAの酸化損傷の抑制と酸化RNA排除機構
	診断・全身管理学	教授	湯浅 賢治	650	咀嚼筋の生理・生化学的性状の画像化によるブラキシズム性状評価システムの構築
	口腔治療学	准教授	泉 利雄	780	生体活性ガラス添加試作リン酸カルシウムセメントの歯内治療への応用
	総合歯科学	准教授	米田 雅裕	1,430	根尖病変における細菌凝集活性の意義
	口腔・顎顔面外科学	教授	池邊 哲郎	1,040	生活環境ストレスによる舌粘膜の分子的損傷の診断法についての基礎的研究
	総合歯科学	准教授	内藤 徹	1,430	歯周メインテナンスは全身のQOLの維持につながるか?
	成長発達歯学	准教授	塚本 末廣	650	口腔乾燥の改善に関する研究
	医療人間学	准教授	永嶋 哲也	650	哲学的愛とキリスト教的愛そして恋愛の誕生
	細胞分子生物学	准教授	大久保 つや子	1,300	T型Caチャンネル遺伝子methylationによる機能修飾とがん細胞における役割
	機能生物化学	教授	上西 秀則	780	酵母から発見した新規NADの神経細胞分化誘導・保護作用に関する研究
	細胞分子生物学	講師	岡本 富士雄	1,430	Ca ²⁺ 透過性イオンチャンネル(TRP)による破骨細胞のアポトーシス誘導機序の解明
	細胞分子生物学	講師	鍛冶屋 浩	1,950	破骨細胞酸分泌を調節する新規分子の探索とその調節機序解析
	生体構造学	講師	大野 純	1,430	口腔粘膜免疫疾患におけるエフェクター細胞の上皮指向性機序の解明
	生体構造学	准教授	岡村 和彦	1,170	クロライドチャンネル関連分子CLCAによる細胞増殖・接着の制御
	口腔治療学	教授	阿南 壽	1,430	生体活性ガラスを応用した根尖部歯周組織再生療法の開発
	咬合修復学	教授	高橋 裕	1,300	ガラス繊維強化型コンポジット(FRC)の開発と義歯応用への実用化に向けた検討
	咬合修復学	准教授	清水 博史	1,430	異種高分子材料で構成する新しい補綴装置の開発
	咬合修復学	教授	松浦 正朗	520	デジタル映像を用いた顔面補綴物(エビテーゼ)の誘目性低下に対する研究
	歯科医療工学	講師	川口 稔	910	ナノカーボン分子ヒーターによる組織再生促進モデルの構築
	生体構造学	教授	稲井 哲一朗	1,430	クローデインの組成とその変異体によるタイト結合の細胞間透過性制御の研究
総合医学	教授	畑 快右	1,300	糖尿病網膜症の病態解明と新規治療法開発	
挑戦的萌芽研究	口腔治療学	教授	坂上 竜資	1,200	マウス歯胚によるヒト歯硬組織再生に関する研究
	歯科医療工学	准教授	福島 忠男	1,000	DNA/人工タンパク質複合体の透明フィルム化と軟組織再生用材料への応用
	口腔・顎顔面外科学	教授	大関 悟	1,400	炎症性サイトカインシグナルSTATの扁平上皮癌におけるin vivo評価法の開発
若手研究(B)	歯科衛生学科	准教授	※知念 正剛	1,400	微量唾液を使った口腔乾燥症診断評価に関する研究
	総合医学	助教	久留島 秀朗	2,210	脳血管障害形成過程における細胞内カルシウム動態の研究
	生体構造学	助教	岡 暁子	2,860	軟口蓋発生における分子メカニズムの解明
	成長発達歯学	講師	玉置 幸雄	2,470	自己組織化マップを応用した外科的矯正治療の診断支援システム
	成長発達歯学	助教	秦 雄一郎	910	サイトカインによる口蓋骨欠損ラットに対する骨移植後の生着効果
	口腔治療学	講師	諸 富孝彦	2,340	各種サイトカインの段階的・連続的徐放による象牙質-歯髄複合体再生療法の検討
	口腔治療学	助教	茂山 千英子	1,690	根尖病変のフレアアップと唾液中ストレスホルモンの関連の解明
	咬合修復学	助教	片 淵 三千綱	650	新規アプローチによる骨再生誘導法開発
	放射線室	診療放射線技師	市原 隆洋	1,170	MRIのトラクトグラフィを指標とした下顎枝矢状分割術後の知覚異常評価法の確立
	口腔・顎顔面外科学	助教	多田 剛之	1,950	口腔扁平上皮癌による顎骨浸潤メカニズムの解明と顎骨浸潤抑制剤の確立
	歯科衛生学科	准教授	※後藤 加寿子	1,300	咬合性外傷モデルマウスを用いたケモカイン発現と顎骨吸収との相関解析

注) 氏名欄の※印は、福岡医療短期大学所属教員を示す。

科学研究費補助金(科研費)は、文部科学省、日本学術振興会が行っている「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、厳密な審査を経て、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対して助成が行われるものです。研究課題が科研費に採択されることは、他の専門研究者から高い評価を得たことを意味し、研究者にとって研究論文と共に重要な業績になっています。

新理事・評議員紹介

理事・評議員
すいた さちよ
水田 祥代



評議員
まつだ しゅんいちろう
松田峻一良



略歴
九州大学医学部卒業。英国リバプール大学附属アルダーヘイ小児病院留学。帰国後、九州大学大学院医学研究科修了、九州大学第二外科助手、小児外科講師、福岡市立こども病院・感染症センター小児外科部長、九州大学医学部助教授、教授（小児外科学講座）、九州大学病院長、福岡歯科大学客員教授を経て、九州大学理事・副学長。大分県出身。

略歴
聖マリアンナ医科大学卒業。福岡大学大学院修了、福岡大学助手、松田耳鼻咽喉科病院副院長、福岡市東区医師会理事、松田耳鼻咽喉科病院院長、福岡市東区医師会監事、福岡県医師会理事、医療法人永聖会松田病院理事長、福岡県医師会専務理事を経て、福岡県医師会会長。福岡県出身。

昇任教員紹介

おおくぼ つやこ
大久保つや子
准教授
分子機能制御学分野



略歴
九州大学理学部卒。福岡歯科大学助手、講師を経て平成22年6月1日同大学准教授に就任。米国ネバダ州立大学医学部留学。博士(歯学)。福岡県出身。

抱負
薬理学は、薬物の作用機序や、薬物と生体の相互作用の結果起こる現象などを、分子、細胞、個体レベルで考える学問です。薬理学教育を通して、「EBM: 根拠に基づく医療」を行える歯科医育成の一端を担うべく微力ながら努めて参ります。

本校校歌作詞者
片岡 繁男 氏 逝去
福岡歯科大学校歌作詞者である片岡繁男先生が、4月22日にご逝去されました。平成20年に寄贈いただいた先生の直筆歌詞は、本館1階正面玄関ホールに展示されております。享年94歳。衷心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。合掌

上海交通大学口腔医学院の学生訪問団来学

上海交通大学口腔医学院の学生訪問団が、4月11日から8日間、本学を訪問されました。本学との学生交流は、2006年から毎年行われ今年で5回目になります。3月に本学の5年生が訪問し、4月に上海の5年生が来学しています。

今年の訪問団は、口腔医学院副院長の馮希平教授(予防歯科学)を団長に、朱亜琴教授(総合歯科学)、張瑛教授(口腔顎顔面外科学)、5年生6名の計9名が来学されました。

6名の学生は、保存科、補綴科、口腔外科、小児歯科、矯正歯科の病院実習に参加するとともに、基礎系および臨床系講義を受講しま

した。また、3名の教授には、学内で講演をして頂きました。

帰国する前日には阿蘇観光を楽しみ、18日に無事帰国されました。

今年上海を訪れた本学学生も、1ヶ月振りの再会を喜び、授業の合間をぬって上海の学生と行動を共にし、交流を深めていました。この交流の輪は訪問した学生のみならず、校友会を中心に多くの学生に広がっており、学生間の交流は年々深まっているように感じられました。



阿蘇火口での記念撮影



対面式

東釜山大学学生が短大を訪問

5月19日、姉妹校である東釜山大学歯衛生科から教員と学生37名が福岡医療短期大学を訪れ、歯科衛生学科第3学年が歓迎の交流会を開催しました。両校は毎年相互に訪問し教員、学生間の交流を深めています。交流会ではそれぞれの大学の紹介や歌を披露するなど、慣れない日本語、韓国語や英語でコミュニケーションを図りながらも、楽しい一時を過ごしました。



記念撮影

海外研修派遣

所属分野	職名	氏名	用務	派遣先	派遣期間
眼科学	助教	中尾 新太郎	米国視覚眼科学学会出席	Fort Lauderdale, Florida (USA)	自:H.22. 4. 30 至:H.22. 5. 7
口腔インプラント学	教授	松浦 正朗	The 9th Annual Meeting of Pan-Pacific Implant Societyの特別講演の講師として出席	杭州市 (China)	自:H.22. 6. 3 至:H.22. 6. 6
口腔顔面美容医療センター	講師	松永 興昌	The 3rd International CAMLOG Congressにて講演	Stuttgart (Germany)	自:H.22. 6. 9 至:H.22. 6. 13
有床義歯学	大学院生	吉田 兼義	The 88th IADR General Session & Exhibitionにてポスター発表	Barcelona (Spain)	自:H.22. 7. 13 至:H.22. 7. 19
	准教授	清水 博史			
歯科保存学	大学院生	川口 智弘			
口腔健康科学	助教	茂山 千英子			
	教授	埴岡 隆	1.The 88th IADR General Session & Exhibitionにてポスター発表 2.同学会のJDR editorial board meetingに出席	Barcelona (Spain)	自:H.22. 7. 14 至:H.22. 7. 18
総合歯科学	助教	山本 未陶	The 88th IADR General Session & Exhibitionにてポスター発表	Barcelona (Spain)	自:H.22. 7. 14 至:H.22. 7. 18
	教授	廣藤 卓雄			
機能構造学	大学院生	榎尾 陽介	The 88th IADR General Session & Exhibitionにてポスター発表	Barcelona (Spain)	自:H.22. 7. 11 至:H.22. 7. 19
	大学院生	岩元 知之			
機能構造学	教授	沢 禎彦	1.The 88th IADR General Session & Exhibitionにてポスター発表 2.バルセロナ大学歯学部・解剖発生学教室視察	Barcelona (Spain)	自:H.22. 7. 13 至:H.22. 7. 20
口腔顔面美容医療センター	講師	松永 興昌	Dental Technology Advancements-Japanese Dental Leader Meeting-にて講演	Saint Paul, Minnesota (USA)	自:H.22. 8. 29 至:H.22. 9. 5

田中理事長、テレビ番組収録

田中健蔵理事長が5月19日、KBS京都（京都放送）のテレビ番組「比叡の光」の収録を行いました。田中理事長は、比叡山延暦寺一山瑞応院住職山田能裕氏との対談において、幅広い経験に基づいた教育、とりわけ医学教育、歯学教育のあり方など御自身のお考えを披露されました。

下記のとおり、2回に分けて放送が予定されています。

- 放送予定:9月26日(日)、10月3日(日)8:45~9:00
(放送日時は都合により変更する場合があります。)
- 放送局:京都放送 (KBS)
※その他の放送局
東京MXテレビ (MX)、新潟放送 (BSN)、
びわ湖放送 (BBC) 等

残念ながら九州地区での放送はございませんが、本学ホームページに動画を配信する予定ですので、ご期待下さい。



福岡歯科大学特待生

福岡歯科大学の平成22年度特待生に次の5人が選ばれました。特待生は、平成21年度の学業成績が特に優秀であり、品行方正、かつ健康な学生に授与され、その年度の授業料の半額が免除されます。



第2学年
大島 優



第3学年
柴田 華衣



第4学年
小野 由湖



第5学年
榎坂 佳子



第6学年
橋本 明枝

福岡歯科大学大学院特別奨学生、大学院奨学生決定

平成22年度福岡歯科大学大学院特別奨学生9人及び大学院奨学生10人を下記のとおり決定しました。修学資金として、大学院特別奨学生に毎月16万円、大学院奨学生に年額70万円を支給します。

《大学院特別奨学生》

- 第4学年 中山 修二(口腔外科学) 第2学年 佐野 しおり(歯周病学)
- 第4学年 吉田 兼義(有床義歯学) 第1学年 堤 貴司(有床義歯学)
- 第3学年 中富 佑香(矯正歯科学) 第1学年 府川 晃久(口腔腫瘍学)
- 第3学年 榊尾 陽介(総合歯科学) 第1学年 村上 弘(歯周病学)
- 第2学年 坂井 拓弥(口腔インプラント学)



《大学院奨学生》

- 第4学年 岩元 知之(総合歯科学) 第4学年 別府 健介(口腔インプラント学)
- 第4学年 来海慶一郎(口腔外科学) 第3学年 大城希美子(歯周病学)
- 第4学年 佐々木美智子(冠橋義歯学) 第3学年 岡本 愛彦(口腔外科学)
- 第4学年 中島 一記(矯正歯科学) 第3学年 川口 智弘(有床義歯学)
- 第4学年 福岡 宏士(冠橋義歯学) 第3学年 根本 哲臣(有床義歯学)

福岡歯科大学AO入試学術奨励金支給者

平成22年度AO入学試験における成績が優秀であった学生を対象に、AO入学試験学術奨励金(年額120万円)を授与しました。本年度は後藤碧さんに支給されました。



第1学年
後藤 碧

福岡医療短期大学特別奨学生

福岡医療短期大学 ◇歯科衛生学科 第2学年

の平成22年度特別奨学生に次の7人が選ばれました。

特別奨学生は、その年度の授業料の半額が免除されます。



福原 一世



青山 理恵



坂本由里子

◇保健福祉学科 第2学年



増田 義弘



永岡 秀子



有働 聖菜



古園 美幸

◇歯科衛生学科 第3学年

福岡歯科大学大学院RA、TA決定

福岡歯科大学大学院の平成22年度リサーチアシスタント(RA)及びティーチングアシスタント(TA)に次の方が採用され、7月5日、辞令交付式が行われました。(手当として年額27万円支給されます。)

◇リサーチアシスタント(RA)

- 第4学年 岩元 知之(総合歯科学) 第3学年 今泉 友里(障害者歯科学)
- 第4学年 中島 一記(矯正歯科学) 第3学年 野田 雄也(障害者歯科学)
- 第4学年 別府 健介(口腔インプラント学) 第2学年 西村 紗和(矯正歯科学)
- 第3学年 天野 郁子(障害者歯科学)

◇ティーチングアシスタント(TA)

- 第3学年 酒井亜希子(成育小児歯科学) 第1学年 長谷 英明(有床義歯学)
- 第2学年 王 東江(口腔インプラント学) 第1学年 秦 省三郎(矯正歯科学)
- 第2学年 堀越恵美子(矯正歯科学) 第1学年 濱中 一平(有床義歯学)
- 第1学年 内山 貴誠(矯正歯科学) 第1学年 半田 千恵(矯正歯科学)
- 第1学年 太田 信敬(口腔腫瘍学) 第1学年 森 南奈(歯周病学)
- 第1学年 加地 千晶(障害者歯科学) 第1学年 安野貴美恵(口腔インプラント学)
- 第1学年 鴨川 和子(口腔インプラント学) 第1学年 山内 由宣(矯正歯科学)
- 第1学年 篠崎 陽介(口腔インプラント学)
- 第1学年 友岡 みわ(障害者歯科学)

第13回福岡歯科学園体育祭

5月28日、福岡歯科大学グラウンド及び体育館にて福岡歯科大学・福岡医療短期大学の共同開催による学園体育祭が開催されました。大学349名、短大234名、計583名の学生が参加し、熱戦を繰り広げました。

グラウンドでは、クラブ対抗リレー、サッカー、体育館では、玉入れ、バスケットボール、バレーボールなどの競技が行われました。各競技の結果は下表のとおりです。

種目	区分	優勝	準優勝
バレーボール	男子	大学 第3学年 熊谷チーム	大学 第5学年 樋口チーム
	女子	短大(歯科衛生学科)第3学年 みなみチーム	短大 専攻科 小園チーム
バスケットボール	男子	大学 第4学年 ヒロシチーム	大学 第6学年 まことチーム
	女子	短大(歯科衛生学科)第2学年 水久保チーム	短大(歯科衛生学科)第2学年 村田チーム
サッカー	男子	大学 第2学年 横山チーム	大学 第1学年 古賀チーム
玉入れ	男女共通	大学 第4学年 時任チーム	短大(保健福祉学科)第2学年 石原チーム
クラブ対抗リレー	男子	バスケットボール部	サッカー部
	女子	バスケットボール部	バレーボール部



第42回歯学体夏期部門

第42回全日本歯科学学生総合体育大会夏期部門(事務主管 徳島大学歯学部)が、7月30日から8月10日にかけて徳島県を中心に各地で開催されます。本学が参加する各競技と会場は下表のとおりです。

部門名	日程	会場
硬式野球	8月2日(月)～8月10日(火)	寝屋川公園第1・2野球場(大阪) 淡路佐野運動公園第1・2野球場(兵庫)
硬式庭球	8月2日(月)～8月6日(金) (5、6日は予備日等)	白子町テニスコート(千葉)
サッカー	8月1日(日)～8月7日(土) (1日は練習日等)	徳島市民吉野川運動広場(南側) 徳島スポーツビレッジ(徳島)
ゴルフ	8月2日(月)～8月4日(水) (2日は練習日等)	グランディ鳴門(徳島)
バドミントン	8月2日(月)～8月6日(金)	大阪市中央体育館(大阪)
バレーボール	8月4日(水)～8月8日(日) (4日は練習日等)	北島サンフラワードーム(徳島) 松茂町立体育館(徳島)
バスケットボール	7月31日(土)～8月4日(水)	北島サンフラワードーム(徳島) 鳴門アミノバリューホール(徳島)
ボウリング	8月1日(日)～8月4日(水)	新大阪イーグルボウル(大阪)
柔道	8月7日(土)～8月8日(日)	大阪市立修道館(大阪)
剣道	7月30日(金)～8月1日(日) (30日は練習日等)	徳島市立体育館(徳島)
弓道	8月4日(水)～8月6日(金)	桃太郎アリーナ(岡山)
空手道	7月31日(土)、8月1日(日) (31日は練習日等)	大阪歯科大学牧野学舎体育館(大阪)
水泳	8月6日(金)～8月7日(土)	千葉国際プール(千葉)
ヨット	7月31日(土)、8月1日(日)	海陽ヨットハーバー(愛知)
ボクシング (オープン競技)	8月8日(日)	日本大学松戸歯学部体育館(千葉)
サーフィン (医科歯科サーフィン大会)	7月31日(土)、8月1日(日)	日向市金ヶ浜海水浴場(宮崎)

五大学連携共同開講授業科目「博多学」開講

協定を締結し教育連携を進めている、福岡市の西部地区にある5大学(九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)が今年度初の試みとして、共同開講授業科目である「博多学」を5月8日開講しました。本学上西教授の引率で、参加者は鴻臚館遺跡や筥崎宮(5/8)、東長寺・博多町家ふるさと館(5/15)、福岡市博物館(5/22)などを訪れ、「博多」の魅力に触れました。この授業では、5月に行われる実地見学と8月に行われる集中講義により、博多を「自然」、「歴史」、「文化」の面から考察し、自らの勉学の場である福岡・博多について理解してもらうことを目的に計画され、全大学から多くの学生が受講し、学生交流も併せて図ることができました。



鴻臚館遺跡見学

共用試験(OSCE、CBT)実施

平成22年度共用試験として、臨床実習前の5学年99人が、6月27日実施のOSCE(技能・態度を評価する臨床能力試験)並びに7月2日実施のCBT(コンピュータ上で行う知識・思考力(問題解決能力)を問う多肢選択式試験)を受験しました。

この共用試験は、診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる基本的知識と問題解決能力、基本的技能と基本的態度を評価するために行われるものです。

なお、本学から運営スタッフとして教職員約150名、模擬患者(学外14名、学内6名)20名が参加されました。

第8回サンシャインシティ運動会

6月27日、介護老人保健施設サンシャインシティ1階デイケア・リハビリフロアにて第8回運動会が開催されました。

この運動会は入所者の日ごろのリハビリの成果を家族の方にも見ていただき、競技を通じて入所者とその家族、職員の交流を図ること、また、施設看護・介護について理解を深めていただくことを目的として毎年行っています。

今年は借り物競走や綱引き、玉入れなどの競技が行われ、入所者は勿論、御家族の皆さん、職員も楽しいひと時を過ごしました。



From The Alumni Association

同窓会だより

■ 新たな試み ICOI・F.P.I.T.のコース始まる

同窓会創立以来、新たな試みとして本年度はふたつのコースを開催、既に前倒して3月よりスタートいたしました。

ひとつは、ICOI (International Congress of Oral Implantologists) のコースです。世界89カ国でおよそ20,000名を擁す世界最大の口腔インプラント学会です。国際的なネットワークで最新の歯科医療情報と研修の機会を会員に提供し、ICOI所属の歯科医師は経験や技術に応じて3種類 (ICOI Fellowship・IPS Mastership・ICOI Diplomate) の認定資格を授受しています。今回は、ICOI Fellowship取得のためのコース (5回の講座) です。本学咬合修復学講座の佐藤博信・松浦正期両教授を始め戸寛史准教授他関係各位の先生方のご尽力で実現いたしました。講師陣は、本学で研究・教育と日夜奮闘ご活躍されておられる先生方をお迎えしております。グローバルな観点

でのインプラント治療を含む歯科治療を更に向
上させ、社会貢献できることを目指し企画いた
しました。

ふたつ目は、既に第3回目の開催となります
F.P.I.T. (Fair Play Implant Technique) の
コース (6回の講座) です。やはり本学の咬合
修復学講座口腔インプラント学分野の研究生
でかつ同窓生による講師陣で構成され、客観
的な視点に立ったインプラントロジスト育成のた
めのコースです。今回、同窓会は共催させてい



ICOI Fellowship養成コース第3回

ただきました。

同窓会学術委員会といたしまして、医療人としての倫理観、探求・研究心、教育、医療技術などより一層の卓越した歯科医師への道しるべになればと考えております。

末筆になりますが、本学のご発展ならびに同窓会員の皆様方に寄与できますことをご祈念いたしますとともに、今後とも同窓会にご指導ご協力の程宜しく願い申し上げます。

学術常務理事 岩本 憲明 (2期)



F.P.I.T.インプラントセミナー

■ 同窓会通信 「第12期福岡歯科大学同窓会の船出」

平成22年5月29日、平成21年度定時評議員会及び定時総会が開催され、宮口巖会長のもと63人の第12期役員が決定し、平成21年度収支決算・平成22年度収支予算案として事業計画が承認され、新たな気持ちでの出航となった。そんな中、少し心配な事もある。平成21年度末で3,650名の卒業生の内、同窓会正会員は2,191名・準会員は608名である。正会員の内、平成21年度に会費を納入したのは、なんと1,848名しかいない。現在この人数の会費収入

でなんとか同窓会の管理運営を行っている。しかし10年後に、会費納入の免除会員が出てくると果たして安定した運営ができるだろうか？ 毎年会費収入は減少し、いずれは現在の1/3程度の会費収入しか見込めない時代がやって来る。早目に手を打っておかなければ社会情勢と同様の高齢化社会の波が同窓会にも押し寄せ、入会率が極端に少ない15期以降の先生方に多くの負担をかけてしまうと、この船もこの荒波に耐える事ができるだろうか？ この船を

支えるには多くの会員が必要だ。

未入会の先生方が、入会しやすい環境を整備し、より魅力ある同窓会活動を検討し、会員としてのメリットを増し、多くの先生方の賛同を得て、いずれは卒業生全員が正会員となり、絶対に沈む事の無い今以上の大型船に乗り込んで、全世界に航路を広げて行くよう第12期執行部は船出した。どうか同窓会活動にご理解いただき、ご協力をお願い致します。

副会長 佐伯 和道 (4期)

卒業生トーク

「∞ 無限大」 長 也寸志 (9期)



こんにちは、9期卒の長也寸志です。私が卒業したのは昭和62年ですから、もう歯科医師を24年経験したという事になります。その間歯科業界も目まぐるしく変化をしてきました。昔の患者は素直で良かったとか、保険点数が高かったとか、歯科医師が数人集まるといつも過去の栄華? 時代の話で盛り上がりします。

まるで今は夢も希望も全く無いように聞こえますが、はたしてそうでしょうか？ 答えはNOです。現在から将来に向

け我々歯科業界に求められているものは無限大です。歯周病と全身疾患との関わりは勿論の事、インプラントや審美、とりわけ介護や福祉との連携はますます求められてくるでしょう。

当院では一般外来に併設された訪問歯科診療部門もあり15年前より積極的に取り組んでいます。他にも障害者歯科部門を3年前に開設し力を入れています。また歯科医療施設には珍しいかもしれませんが、障害者就労移行支援事業所も法人の事業として併設しています。色々な状況下におかれた方たちに、平等に口腔機能を維持改善していただきたいという思いで臨んでいます。母校の福岡歯科大学は歯科医療のみならず、福祉や介護にも目を向けた施設をもっています。これは在学生の皆さんにとっても貴重な、将来に活かせるものではないでしょうか。これからの皆さんの躍進に期待します。



就労移行支援事業所の開所2周年記念式典

30年間の出来事



3期生ですので卒業して30年目となります。卒業後は第2口腔外科の研究室に約4年間在籍し、本田武司先生、古本克磨先生に御指導をいただき、その後宮崎県立宮崎病院歯科に4年間在職して昭和63年に大森歯科医院を設立しましたので、開業して早や22年が経ってしまいました。その間に結婚して4人の子供を授かりました。また、開業して3年目の春に長く自分の良き指導者であった父親が他界しました。色々な出来事があり数えればキリがないのですが、今、振り返って考えてみるとすべてがアツという間の出来事の様です。その時はつらくて悲しくてとても大変だと思われた事も今では思い出の一場面となっています。しかし小さな事であっても嬉しかった事、楽しかった事は大きく頭の中に残っています。4人の子供を授かって皆が健康で元気である事、浪人した者もいたけれど3人が希望する大学に入学できて父親として嬉しかった事、友人が結婚して良い家庭を築き、そしてその息子さんが福岡歯科大学に合格して、一緒に喜んだ事、同級生と一緒に温泉旅行に出かけて学生時代の思い出を語り合った事、最近では福岡歯科大学口腔インプラント科の松浦正朗教授の御指導御助力のおかげで、日本口腔インプラント学会の専門医・指導医の資格が取得出来た事など多々あります。学会論文を作成するのに徹夜した事もありましたが、目標が達成できたのは松浦教授のおかげと心より感謝を申し上げます。54歳の中年となりましたが、3期生の同窓の皆様の御健康と御活躍を心よりお祈り申し上げます。

大森歯科インプラントセンター(宮崎県児湯郡)

大森 桂二(3期)

写真上=筆者と近所の子供さん
 写真下=筆者とスタッフ



理念



第6期生として卒業した後、旧第2口腔外科に入局し、外来と病棟を往復しての診療の日々、また、診療後には研究や実験など、思い返せば在籍した6年間で、私自身大きく成長できる糧となりました。それは、もう20数年、四捨五入すると30年近くも前のことです。

お陰様で臨床から遠ざかることなく、小さな夢を抱きつつ借金を背負いながらも天神にて開業することができました。患者さんやスタッフ、その他出会った人達に支えられた20年でした。開業当初は、インプラント等の先端治療を中心にと考えましたが、蓋を開けてみると、来院される患者さんの多くは、歯を削られ、本来の顎位は損なわれ、おまけに不良な清掃状態を呈した方ばかりでした。

天神のような中心地域であれば患者さんのデンタルIQが高く、レベルの高い先端治療が行われていると思っておりました。しかし、当たり前のことも知れませんが、開業する地域に関係なく基本的な保存処置、補綴処置そして口腔衛生指導などがなおざりにされている多くの患者さんを目の前にして、基本的な歯科治療の概念の改善を要することに気づかされたのです。その結果、『天然歯、歯周環境、安定した顎位』の3点を理念に、現在に至ることができました。

この理念を日常臨床で実践し、満足のいく結果を得るには、特に信頼のおける矯正医・歯科医との連携、ディスカッションが大切です。連携治療を行う事で、より患者さんに満足度の高い治療を行う事ができ、その結果患者さんが歯科医療の重要性を再認識する事に繋がります。そしてそれが医院の高い評価と医院と患者さんとの信頼関係を築き、継続的フォローアップへとつながるものと考えます。

最後に歯科界の社会的評価獲得のためには、後輩諸氏に経営環境の悪化に怯むことなく臨床の現場を正面から向き合い、真の意味での改革を期待したいと思います。楽しい人生を過ごす、たまたま選んだ職は歯科医業です。胸をはって言いたいものです。

望月歯科(福岡市)

望月 在秀(6期)

写真上=医院外観
 写真下=写真中央が筆者



保護者からのメッセージ FROM PARENTS



日高 英治

(福岡歯科大学)

「夢」

私の親父は大正生まれで、川筋育ち、昔堅気の関白亭主だった。その親父は生前非常に厳しかった。厳格と言うか、愚直と言うか、まだ小さい私にとってとても敵わない、畏怖する存在だった。大きな背中に「威厳」をしょって仕事に明け暮れる親父の姿は私にとって誇らしく、また眩しくもあった。

その親父を超えることが私の夢だった。大局を見据え将来に備え計画を立て、今をどのように生き、人としてどの様に立ち振る舞うかを、子供の頃から叩き込まれてきた。しかし頭で理解していても、その事が叶うことはなかった。せっせ・せっせと働くばかりで、子育てや進路の相談、家の事は全て家人任せ。子が生まれ中学、高校と進学し、気づいてみれば大学まで進学していた。その息子も来春国家試験を迎える。

息子がまだまだ未熟であるにせよ、最近では家族と歯科医業の会話を楽しむことができるまでに成長している。何故に?と自問してみれば、彼を育ててくれた環境がきっと素晴らしい世界であったおかげでしょう。家人や彼の友人、先生方など周りの方々には敬意・感謝の気持ちでいっぱいである。一方私はというと子供に何ひとつ手を差し伸べることができなかった、がいつの

時も“子供を信じる”事だけは忘れなかったと想う。

さて昨今のマスコミによるワーキング・プア報道の陰か?、それとも近年の厳しい国家試験の影響なのか?、歯学部への進学希望者が激減し、今年も私学11校に定員割れが起きた。この道で生計を立てる私にとって残念でならない。

しかし考えてみれば人生どの道、楽な道はなし。そのなか社会に認知・尊敬され、先方に感謝され報酬を頂ける歯科医療のなんと素晴らしいことでしょう。これからは子供と一緒に更なる夢を語りたい。

明日からも子を信じ、この仕事を続けていきましょう。

「この道より、我を生かす道なし、この道を歩く」 実 篤

最後に私事ながら今年度から中四良会長の後を受け、父兄後援会の会長を務めることになりました。中前会長には2年もの間、父兄会にいろいろなアイデアで大きな改革を行っていただき、紙面を借り感謝申し上げます。

ご父兄皆様の代表として、この1年大学側に色々な提言や援助を行っていきたくと考えます。御協力の程、宜しくお願いします。



白水 智明

(福岡歯科大学)

「歯学から口腔医学へ」

昭和57年に九州歯科大学を卒業し、昭和60年に福岡県春日市に開業して27年目になります。長男が5年前に福岡歯科大学を卒業して現在次男が第4学年に在籍しております。長男在学時には父兄後援会の福岡中央支部長、また昨年度は福岡市の支部長を務めさせて頂きました。そして、今年度は、父兄後援会の副会長を務めさせて頂いています。学生諸君と大学との関係が少しでもスムーズに行く様に、日高会長の下、微力ながらお手伝いをしていくところです。

5月15日の土曜日に父兄後援会理事会、評議員会の合同会議が大学において開催されました。その会議において北村学長から「歯学から口腔医学へ」との内容でお話がありました。歯周病菌と早産、低体重児出産との関係、糖尿病との関係、心臓病との関連な

ど、全身状態と関連付けて口腔内外を理解していく事がこれからは特に必要であるとお話でした。その為に医科と連携した講義が始まっている様です。またお会いした教授の先生方から頂いたご名刺にも『歯学から口腔医学へ』のスローガンがうたってありました。私はこの事こそが、現在の冷え切っている歯科業界の未来に一筋の光をさすものだと思います。全身疾患の治療を行う上で、まず口腔内の状態を安定させることの必要性を医科の方が認識して頂けたら、当然歯科医の仕事も増えてくると思います。

いち早く『歯学から口腔医学へ』にとりこんでおられる大学の姿勢に敬意を表すると共にさらに進めて頂ければと希望いたします。

福岡歯科大学父兄後援会 支部懇談会開催日程

平成22年度の父兄後援会支部懇談会が下記日程のとおり開催されます。各支部の総会のほか、大学からの近況報告や父兄との個別面談、意見交換などが行われます。是非ご参加ください。

詳細については各支部へお問合せください。

開催日	支部名	会場等
7月25日(日)	宮崎県	宮崎観光ホテル(宮崎市)
8月1日(日)	鹿児島県	ブルーウェーブイン鹿児島(鹿児島市)
8月7日(土)	北九州	リーガロイヤルホテル小倉(北九州市)
	大分県	大分東洋ホテル(大分市)
8月8日(日)	福岡県中央	福岡ガーデンパレス(福岡市)
	近畿	ラマダホテル大阪(大阪市)
	福岡市	福岡ガーデンパレス(福岡市)
	福岡県南部	ハynesホテル久留米(久留米市)
	沖縄県	沖縄ナハナホテル(那覇市)
8月21日(土)	四国	松山全日空ホテル(松山市)
	佐賀県	マリトピア(佐賀市)
8月28日(土)	熊本県	熊本全日空ホテルニュースカイ(熊本市)
8月29日(日)	山口県	かめ福本館(山口市)
	広島県	リーガロイヤルホテル広島(広島市)
	山陰	
	岡山県	のがみプレジデントホテル(飯塚市)
	福岡県東部	
長崎県	ホテルニュー長崎(長崎市)	
9月5日(日)	関東・東日本	TKP品川カンファレンスセンター(港区高輪)

第6学年激励会

6月9日、本館食堂において、第6学年の第104回歯科医師国家試験合格に向けての激励会が開催されました。田中理事長、北村学長より激励の言葉、日高父兄後援会長や勝俣同窓会副会長より応援メッセージを頂きました。また、今春、歯科医師国家試験に合格した先輩5人から、学習法や受験までの生活リズムのとり方等のアドバイスがありました。学生の代表として毛利收孝君が全員の合格を誓い、お礼の言葉を述べました。



福岡歯科大学同窓生オープンキャンパス・入試説明会

5月30日と、7月4日に、福岡歯科大学の同窓生のご子弟を対象としたオープンキャンパス及び入試説明会を開催しました。学内施設見学や新しくなった402実習室においての模擬実習「インプラントシミュレーション実習をしてみよう」、在職同窓生・出席教員との昼食会などを行いました。参加者からは「先端医療を取り入れ、将来の医療やコンピュータ化にも対応している様子がよくわかった」「教育設備の充実は素晴らしい」といった言葉をいただき大変好評を得ました。



インプラントシミュレーション実習

【平成23年度入学試験】

福岡歯科大学

【福岡歯科大学AO (Admissions Office方式) 入学試験】

本学のAO入学試験制度は、歯科医学を学び、歯科医師を目指す意志が明確で、次代の歯科医学をリードできる、若く、有能な人材を広く全国から募集する制度です。また、AO入学試験合格者のうち、入学試験成績優秀者に対して、入学初年度から卒業までの6年間の学術奨励金を支給します。(但し、2年次以降は継続条件有)

募集人員	出願受付期間	試験日	合格発表日
約30名	H22年8月 2日(月) H22年8月26日(木)	H22年8月30日(月)	一次:H22年 9月1日(水) 二次:H22年10月6日(水)

歯学部				大学院 歯学研究科		
区分	推薦・指定校推薦入試日程	一般入試A日程	センター試験利用入試	一般入試B日程	一次募集	二次募集
募集人員	約25名	約30名	約6名	約5名	18名	
出願受付期間	H22.10.20(水)~11.2(火)	H23.1.4(火)~1.28(金)		H23.1.24(月)~2.17(木)	H22.7.26(月)~8.13(金)	H23.1.24(月)~2.10(木)
試験日	11月3日(水)	2月2日(水)		2月21日(月)	8月19日(木)	2月17日(木)
合格発表日	11月5日(金)	2月4日(金)		2月23日(水)	9月2日(木)	3月1日(火)

問合せ先 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係
TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp
●ホームページURL <http://www.fdcnet.ac.jp/col> ●携帯電話用ホームページURL <http://www.fdcnet.ac.jp/colhp>



QRコードはこちら

福岡医療短期大学

歯科衛生学科							専攻科・口腔保健衛生学専攻				
区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)	公募推薦入試(II)	一般入試A日程 (社会人を含む)	一般入試B日程 (社会人を含む)	一般入試C日程 (社会人を含む)	一般入試D日程 (社会人を含む)	AO入試 (社会人を含む)	一次募集	二次募集	三次募集
募集人員	約10名	約10名	約5名	約15名	約5名	若干名	若干名	約35名	約15名	約5名	若干名
出願受付期間	H22.11.1(月)~11.11(木)	H22.11.1(月)~11.11(木)	H22.12.1(水)~12.9(木)	H23.1.4(火)~1.28(金)	H23.2.2(水)~2.16(水)	H23.2.21(月)~3.9(水)	H23.3.14(月)~3.25(金)	詳細は入試係までお問い合わせください。	H22.11.17(水)~12.8(水)	H23.1.4(火)~1.12(水)	H23.3.22(火)~3.28(月)
試験日	11月13日(土)	11月13日(土)	12月11日(土)	2月1日(火)	2月18日(金)	3月11日(金)	3月29日(火)		12月11日(土)	1月15日(土)	3月29日(火)
合格発表日	11月19日(金)	11月19日(金)	12月16日(木)	2月4日(金)	2月25日(金)	3月15日(火)	3月30日(水)		12月16日(木)	1月21日(金)	3月30日(水)

保健福祉学科								
区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)	公募推薦入試(II)	一般入試A日程 (社会人を含む)	一般入試B日程 (社会人を含む)	一般入試C日程 (社会人を含む)	一般入試D日程 (社会人を含む)	AO入試 (社会人を含む)
募集人員	約10名	約5名	約5名	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名
出願受付期間	H22.11.1(月)~11.11(木)	H22.11.1(月)~11.11(木)	H22.12.1(水)~12.9(木)	H23.1.4(火)~1.28(金)	H23.2.2(水)~2.16(水)	H23.2.21(月)~3.9(水)	H23.3.14(月)~3.25(金)	詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	11月13日(土)	11月13日(土)	12月11日(土)	2月1日(火)	2月18日(金)	3月11日(金)	3月29日(火)	
合格発表日	11月19日(金)	11月19日(金)	12月16日(木)	2月4日(金)	2月25日(金)	3月15日(火)	3月30日(水)	

問合せ先 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係
TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp
●ホームページURL <http://www.fdcnet.ac.jp/jcol> ●携帯電話用ホームページURL <http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp>



QRコードはこちら

平成22年度オープンキャンパス

福岡歯科大学

実施日
・第1回:8月1日(日)
・第2回:8月22日(日)

内容
模擬実習・施設見学・昼食会
大学概況説明・入学試験説明
個別進学相談会等

入学希望者をはじめ、ご家族や高校・予備校の先生方を対象に福岡歯科大学において平成22年度オープンキャンパスが上記日程で行われます。模擬実習等楽しめる企画を用意しています。お問い合わせの上、お気軽にご参加下さい。(お問い合わせは学務課入試係まで)

●メールに下記項目を明記のうえお申し込みください。

参加者氏名(フリガナ)・学年・高校名・住所・
電話番号・参加人数・送迎バスの要・不要



メールでのお申込みはこちら



施設見学



新しくなった402実習室

福岡医療短期大学

実施日
7月期:7月11日(日)24日(土) 10月期:10月16日(土)
8月期:8月6日(金)21日(土) 11月期:11月20日(土)
9月期:9月11日(土)26日(日) 12月期:12月11日(土)

入学希望者をはじめ、ご家族や高校・予備校の先生方を対象に福岡医療短期大学において平成22年度オープンキャンパスが上記日程で行われます。(お問い合わせは福岡医療短期大学入試係まで)

●メールに下記項目を明記のうえお申し込みください。

参加者氏名(フリガナ)・学年・高校名・住所・
電話番号・参加人数



メールでのお申込みはこちら



歯科衛生学科:歯磨き体験



保健福祉学科:介護施設見学